

参天製薬株式会社

2019年度第3四半期連結業績概要



2020年2月4日

代表取締役社長兼 COO

谷内 樹生

常務執行役員 経営管理担当兼 CFO兼 財務・管理本部長

越路 和朗

執行役員 研究開発本部 製品研究統括部長

森島 健司

将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 新薬の研究開発から承認・発売まで非常に長期間を要し、開発中止、承認申請後の不許可など不確実性を多く含みます。新製品に関わる見通しは、他社との開発・販売提携等を前提とするものが含まれており、こうした提携の成否は当社の業績や財務状況に影響を与える可能性があります。
- 現在発売している主要製品や将来発売が予定されている大型新薬が、万が一特許失効、製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。また、当社が販売している製品の多くは、他社から製造販売権、ならびに販売権を供与されていますが、契約期間満了後、契約条件の変更や、販売提携の解消などが起こった場合、業績に影響を及ぼします。
- 原材料の中には供給を特定の取引先に依存しているものがありますが、何らかの要因によりこうした原材料の供給が停止した場合や、これに起因して当社の製品の供給が滞った場合、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

参天製薬の基本理念・基本使命

<基本理念>

天機に参与する

中国の古典「中庸」の一節を参天が独自に解釈したもので、社名「参天」の由来でもあります。
自然の神秘を解明して人々の健康の増進に貢献するということを意味しています。

肝心な事は何かを深く考え、どうするか明確に決め、迅速に実行する。

<基本使命>

**「目」をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、
これによって参天ならではの知恵と組織的能力を培い、
患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として、
社会への寄与を行う。**

ITUとパートナーシップ契約を締結

ITUとWHOによる眼科領域におけるBe He@lthy, Be Mobileをサポート

健康的なライフスタイルの実現に向け、
非伝染病の予防と管理の啓発を実施



BE
HE@LTHY
BE
MOBILE

MOBILE TECHNOLOGY FOR A HEALTHY LIFE

デジタル技術の活用により眼科領域への新たな価値提供を行う

Verily社との合併会社を設立し、ユニークな眼科デバイスの開発・商業化を目指す

眼科へのデジタル技術の活用



Connectivity



Automation



Big data



Verily社とのJV設立

verily



2019年度第3四半期のハイライト

■ 第3四半期累計 前年同期比5%増収、8%増益（コアベース）

- 中国での伸長を中心に、堅調に推移
- 海外事業は為替影響を受けながらも増収を達成

■ 網膜疾患領域における患者様の生活の質向上へ継続して貢献

- バイエル薬品株式会社とのアイリーア*販売提携契約を延長



■ 新製品の上市により患者様へ新たな価値を提供

- 1日2回の点眼で効果が持続する「アレジオンLX点眼液」を上市



アイリーア*：製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品

2019年度通期業績予想（5月9日の発表数値から変更なし）

成長性とともな効率性のさらなる向上を目指す

(億円) (コアベース)	2018年度	2019年度	
	実績	業績予想	対前期 増減率
売上収益	2,340	2,480	+6.0%
売上原価	908	950	+4.7%
売上総利益	1,433	1,530	+6.8%
販管費	713	740	+3.8%
研究開発費	238	280	+17.9%
営業利益	482	510	+5.7%
当期利益	361	377	+4.5%
負担税率	25.2%	26.1%	
ROE	12.5%	12.8%	+0.3pt

2019年度第3四半期 連結決算概要

2019年度第3四半期累計業績

海外事業の成長により、増収・増益（コアベース）

(億円)	2018年度	2019年度	
	第3四半期	第3四半期	対前期 増減率
(コアベース)			
売上収益	1,732	1,823	+5.3%
売上原価	698	744	+6.5%
売上総利益	1,034	1,080	+4.4%
販管費	512	528	+3.1%
研究開発費	171	172	+0.4%
営業利益	351	380	+8.3%
四半期利益	257	272	+6.0%
(フルベース)			
営業利益	337	289	-14.0%
四半期利益	234	203	-13.2%
USD	111.2	108.9	
EUR	129.5	121.1	
CNY	16.6	15.7	

売上収益

- 国内：重点製品などの成長により、堅調を継続
- 海外：為替影響はあるものの、中国やアジアなど引き続き好調

⇒91億円の増収（+5.3%）

営業利益（コアベース）

- 海外事業の成長
- 費用の最適化

⇒29億円の増益（+8.3%）

営業利益・当期利益（フルベース）

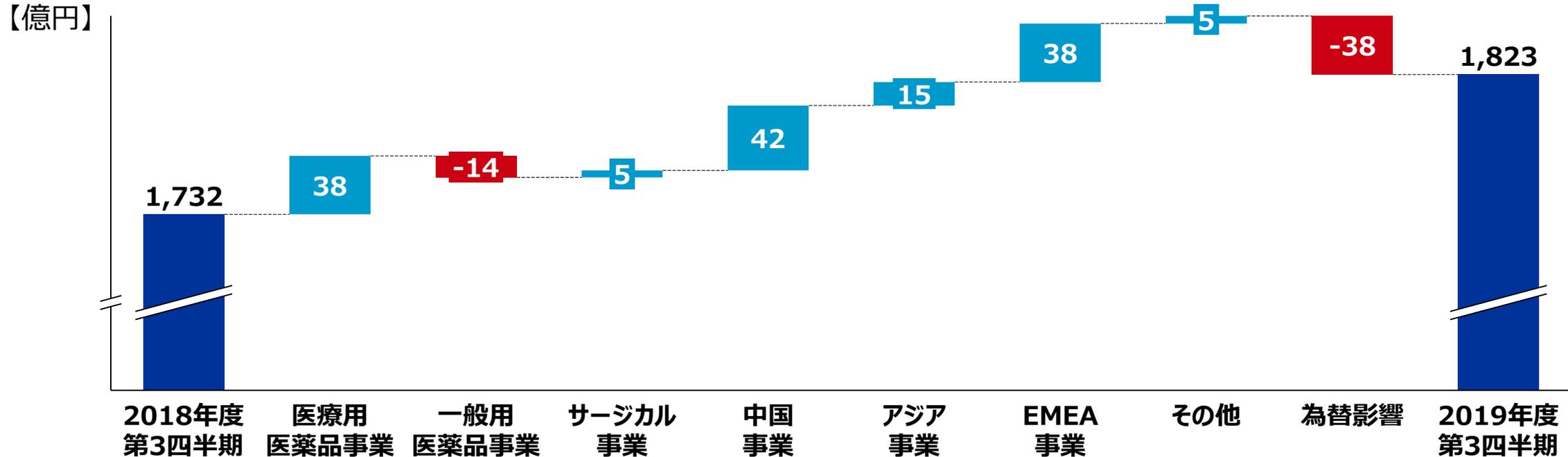
- DE-128の償却開始など
- 前期の日本社・大阪工場売却による収益の反動減

営業利益⇒47億円の減益（-14.0%）

当期利益⇒31億円の減益（-13.2%）

2019年度第3四半期累計 売上収益

海外売上が好調に推移し、グループ売上の成長を牽引



国内事業

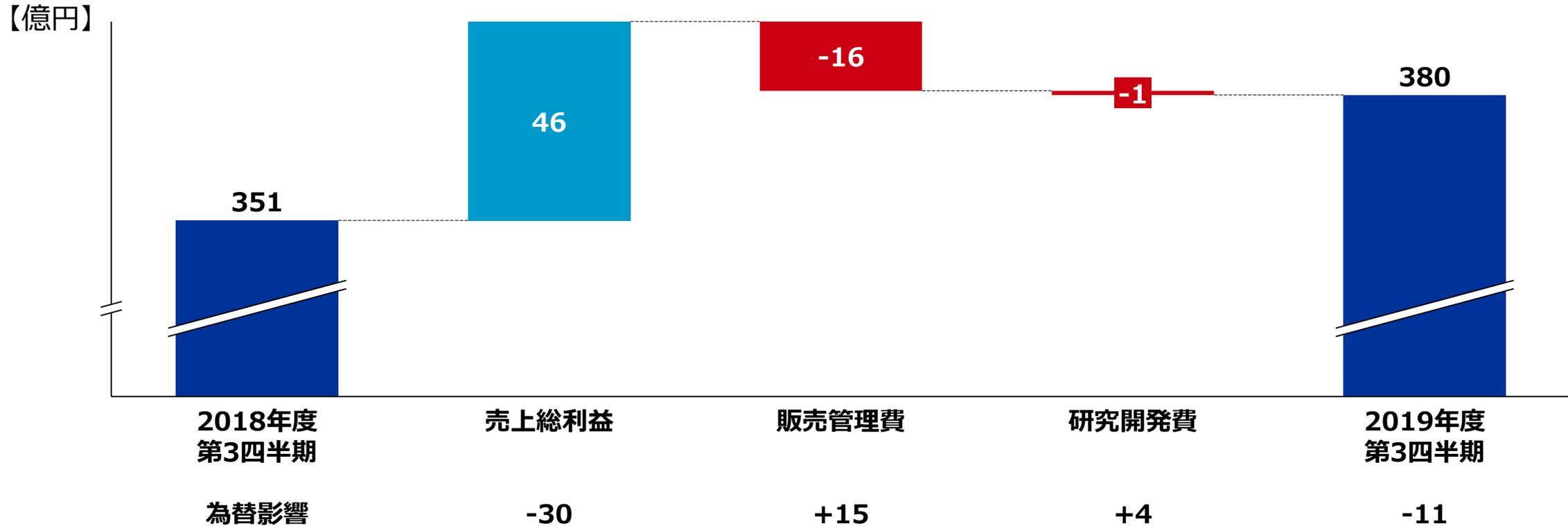
- 医療用医薬品：アイリーア*やアレジオン類などの伸長により増収。エイベリスは12月から処方制限が解除
- 一般用医薬品：国内向け高価格帯製品が堅調、一方、インバウンド需要の落ち込みにより減収
- サージカル：新製品レントイス コンフォートの寄与もあり増収

海外事業

- 中国：中国元ベースで+26%の増収。クラビットやヒアレインが引き続き2桁成長（円建て：+19%）
- アジア事業：各国で売上の高成長を継続（円建て：+7%）（韓国 円建て：+10%、現地通貨建て：+20%）
- EMEA事業：€ベースで+14%の増収（円建て：+7%増収）。イタリア・ドイツなど主要国が堅調、英国で一過性の要因にて売上増加

2019年度第3四半期累計 コア営業利益

増収効果と販売管理費の抑制などにより増益



増減要因

- 売上総利益：増収により増加
- 販売管理費：広告宣伝費の低減などにより販売管理費の増加を抑制
- 研究開発費：一部開発品の遅れに加え、費用投下の最適化により、対前期比でほぼ横ばい
- 為替影響：円高による影響によりコア営業利益ベースで11億円のマイナス

2019年度第3四半期累計 損益計算書

フルベースはDE-128の償却などで減益だが、コアベースは増益

(単位：億円)	2018年度 第3四半期		2019年度 第3四半期		対前期 増減率
	実績	(対売上収益 比率)	実績	(対売上収 益比率)	
売上収益	1,732		1,823		+5.3%
売上原価	698	40.3%	744	40.8%	+6.5%
売上総利益	1,034	59.7%	1,080	59.2%	+4.4%
販売費及び一般管理費	512	29.6%	528	29.0%	+3.1%
研究開発費	171	9.9%	172	9.4%	+0.4%
コア営業利益	351	20.3%	380	20.8%	+8.3%
製品に係る無形資産償却費	52	3.0%	74	4.1%	+41.7%
その他の収益	39	2.3%	3	0.2%	-92.6%
その他の費用	1	0.1%	19	1.1%	--
営業利益(フルベース)	337	19.4%	289	15.9%	-14.0%
金融収益	9	0.5%	9	0.5%	+1.3%
金融費用	21	1.2%	9	0.5%	-59.7%
税引前四半期利益	324	18.7%	290	15.9%	-10.6%
法人所得税費用 (負担税率)	90 27.9%	5.2%	87 30.0%	4.8%	-3.9%
四半期利益(フルベース)	234	13.5%	203	11.1%	-13.2%
コア四半期利益	257	14.8%	272	14.9%	+6.0%

DE-128の償却開始
による影響

InnFocus条件付対価
の評価替

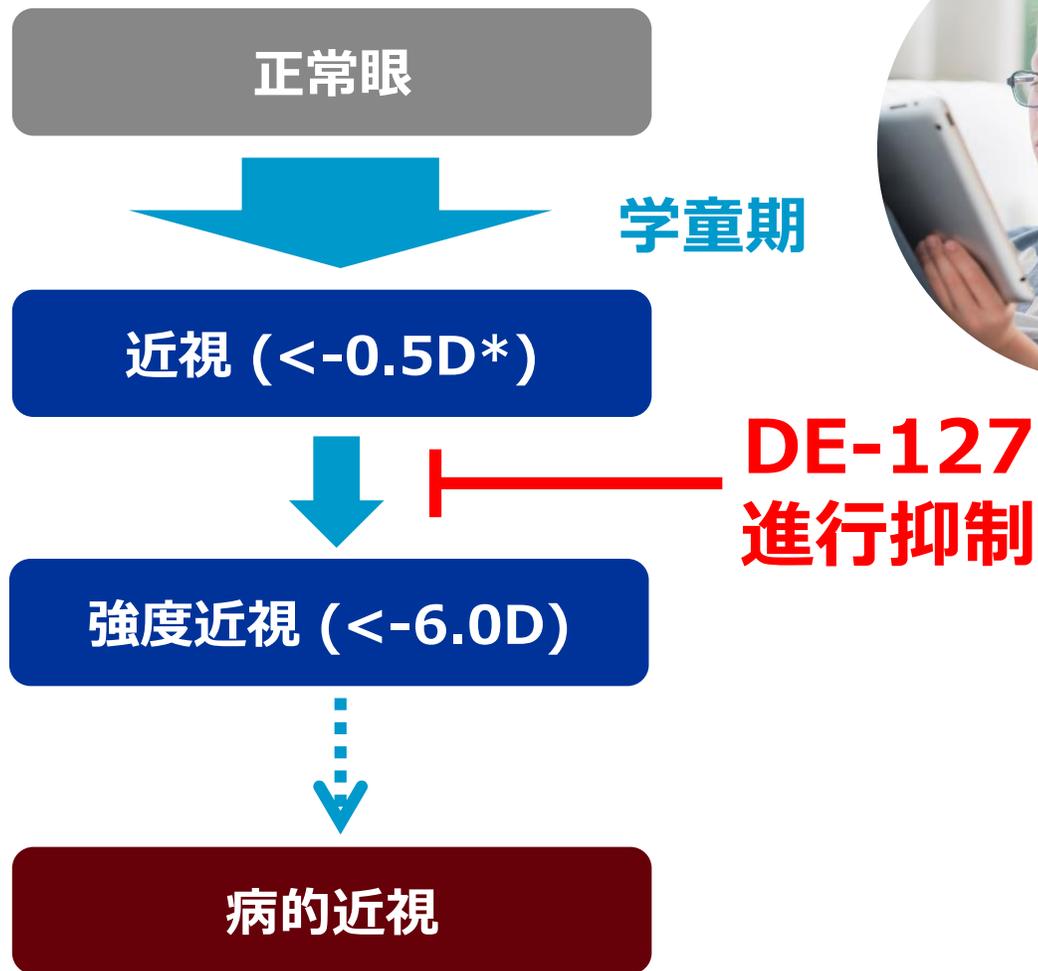
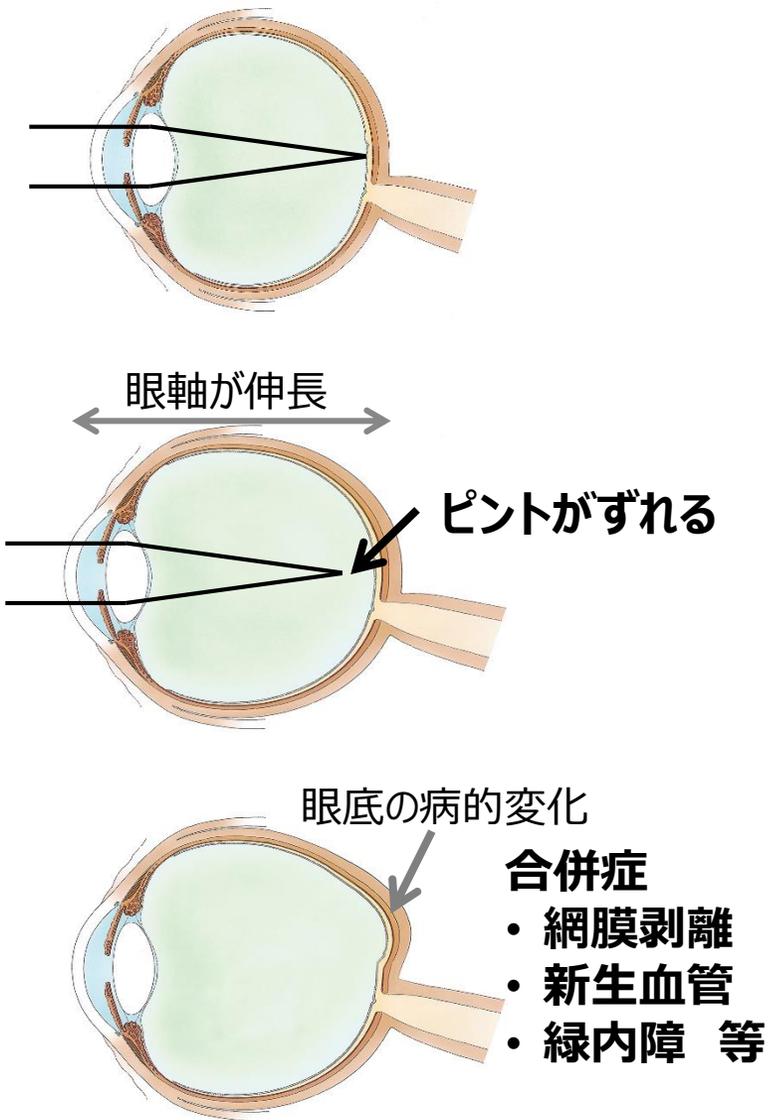
InnFocus条件付対価に対
する税効果未認識の影響、
などにより税率が上昇。

日本社・大阪工場を
売却

研究開発の現状

近視の病態進行

アジアでのP2試験で主要評価項目達成、日本でのP2/3試験実施中



*D (ジオプトリー) : 屈折度の単位。D=1/焦点距離 (m)

研究開発の現状

パイプライン/製品の開発状況①

(2020年1月現在)
下線部は更新情報。

	効能・効果	開発地域	開発状況
DE-111 タブコム / タブティコム タフルプロスト・ チモロールマレイン酸塩配合剤	緑内障・ 高眼圧症	中国	現状：P3 計画：2020年度 P3終了
DE-117 エイベリス EP2受容体作動薬	緑内障・ 高眼圧症	米国	現状：P3 計画：2020年度 P3終了
		日本	現状：上市
		アジア	現状： <u>承認（2019年12月韓国）</u> 計画： <u>2020年度 上市</u>
DE-126 FP/EP3受容体 デュアル作動薬	緑内障・ 高眼圧症	米国	現状：P2b <u>（至適用量探索完了）</u> 計画： <u>2020年度 P2開始（探索的試験）</u>
		日本	
DE-128 <i>PRESERFLO MicroShunt</i>	緑内障	米国	現状：P2/3 計画：2019年度 市販前承認（PMA）の段階的申請完了、2020年度 上市
		欧州	現状：CEマーク取得
DE-130A Catioprost ラタノプロスト	緑内障・ 高眼圧症	欧州	現状：P3 計画：2021年度 P3終了
		アジア	

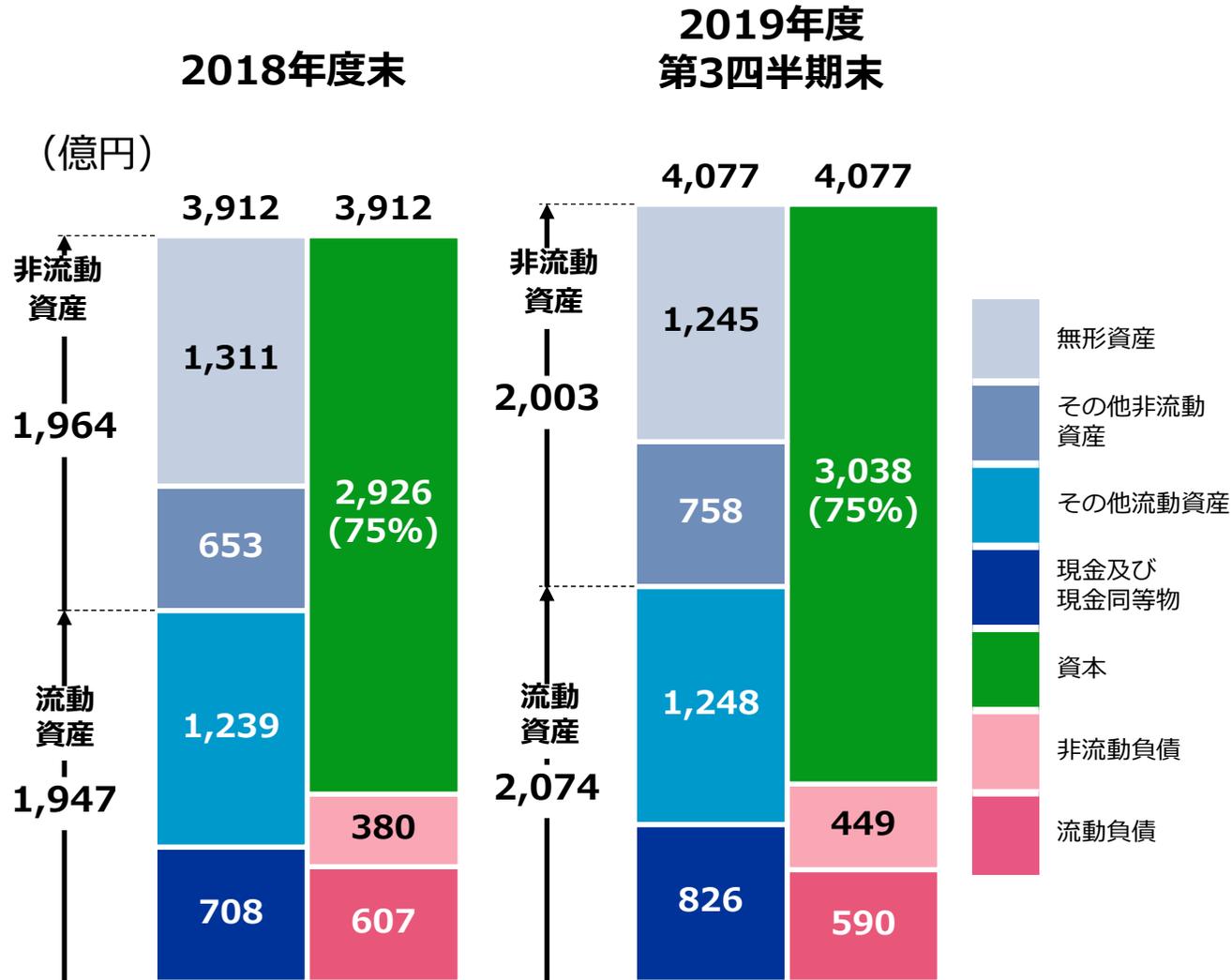
研究開発の現状

パイプライン/製品の開発状況②

	効能・効果	開発地域	開発状況
DE-109 シロリムス 硝子体内注射剤	ぶどう膜炎	米国	現状：P3 計画：2022年度 P3終了
		日本	現状：P3
		欧州	現状：P3
		アジア	現状：申請
DE-122 抗エンドグリン抗体	滲出型 加齢黄斑変性	米国	現状：P2a 計画：2019年度 P2a終了
		欧州	現状：上市
DE-076C Vekacia / Verkazia シクロスポリン	春季カタル	アジア	現状：Ikervisの適応拡大として承認
		その他	現状： <u>上市（2019年11月カナダ）</u>
DE-114A エピナスチン塩酸塩(高用量)	アレルギー性 結膜炎	日本	現状： <u>上市（2019年11月）</u>
DE-127 アトロピン硫酸塩	近視	日本	現状：P2/3 計画：2023年度 P2/3終了
		アジア	現状： <u>P2（主要評価項目達成）</u> 計画：2019年度 P2終了
MD-16 眼内レンズ	白内障	日本	現状： <u>承認（2019年11月）</u> 計画： <u>2020年度 上市</u>

参考資料

2019年度第3四半期末 財政状態の推移



主要変動科目

非流動資産

- リース資産 +69 (IFRS第16号「リース」適用)

流動資産

- 現金及び現金同等物 +118

資本

- 利益剰余金 +112

非流動負債

- リース債務 +49 (IFRS第16号「リース」適用)

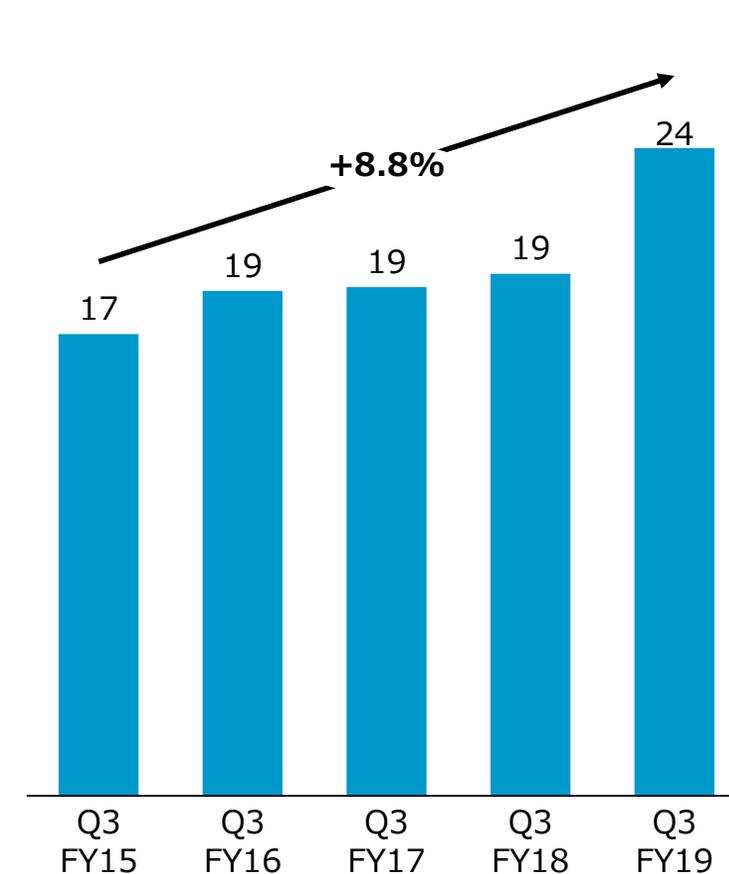
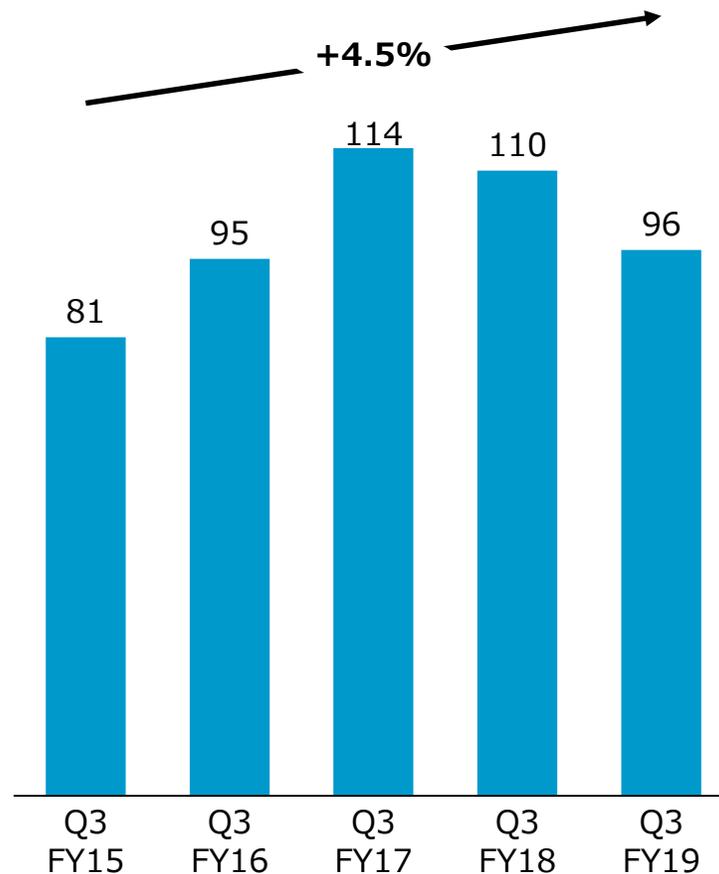
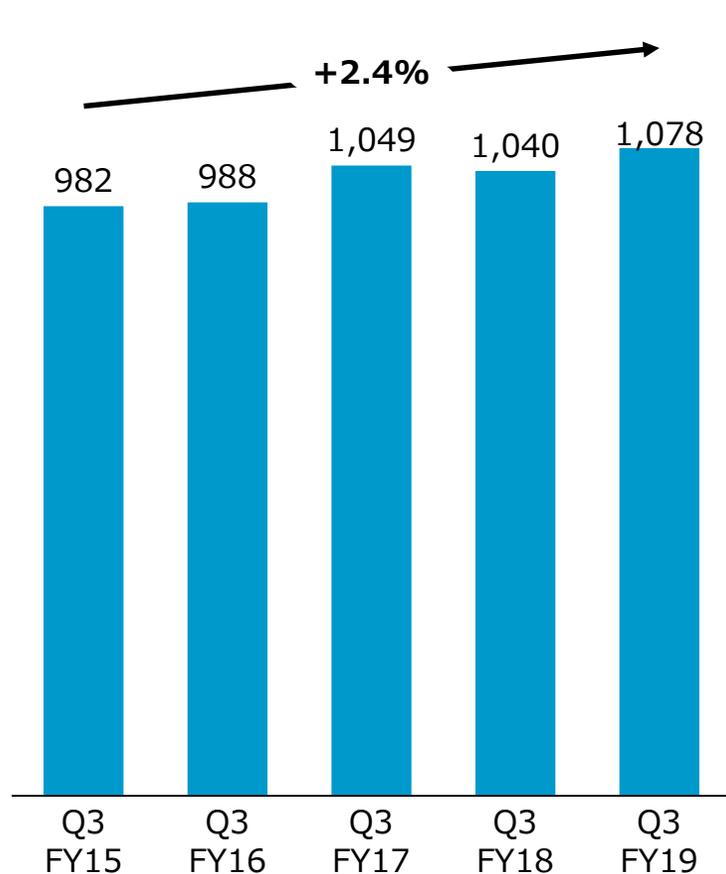
2019年度第3四半期累計 売上収益推移（日本）

【医療用医薬品事業】

【一般用医薬品事業】

【サージカル事業】

(億円、CAGR)

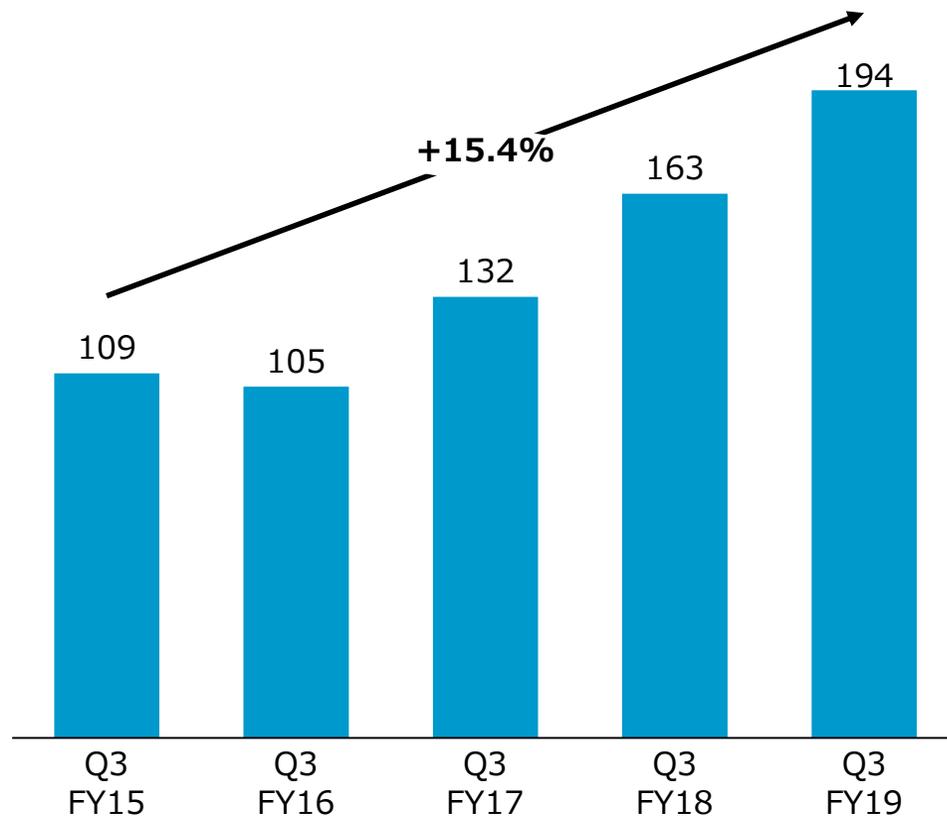


管理単位の変更により数値を変更

2019年度第3四半期累計 売上収益推移（中国）

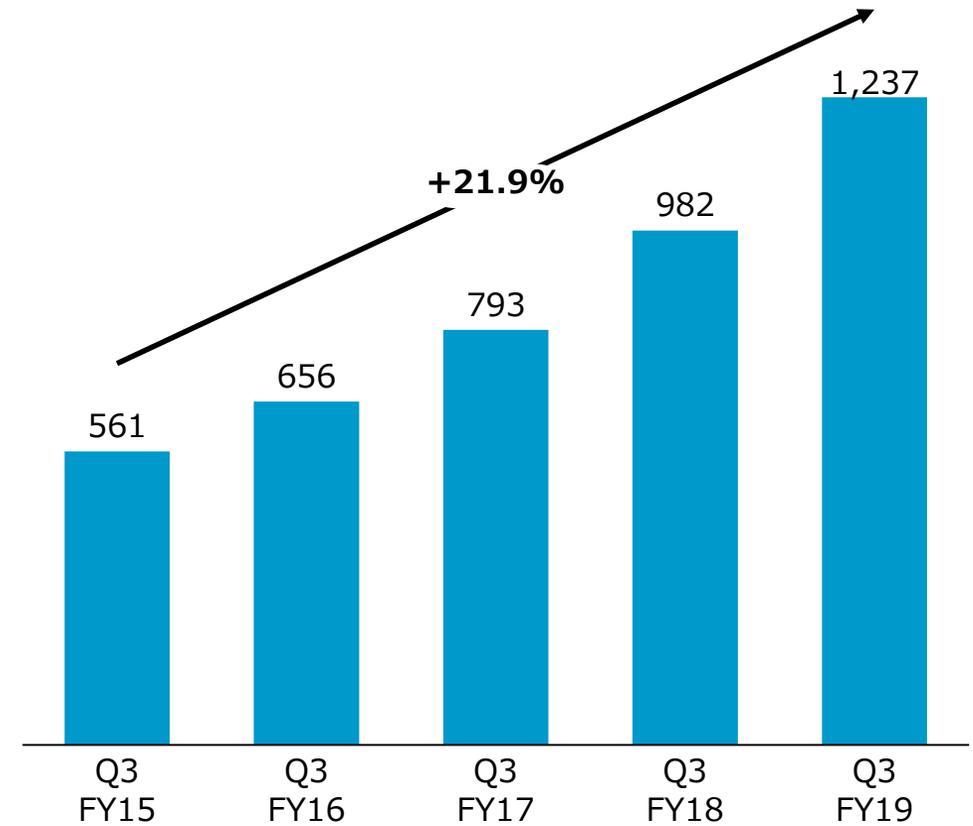
【日本円建】

(億円、CAGR)



【現地通貨建】

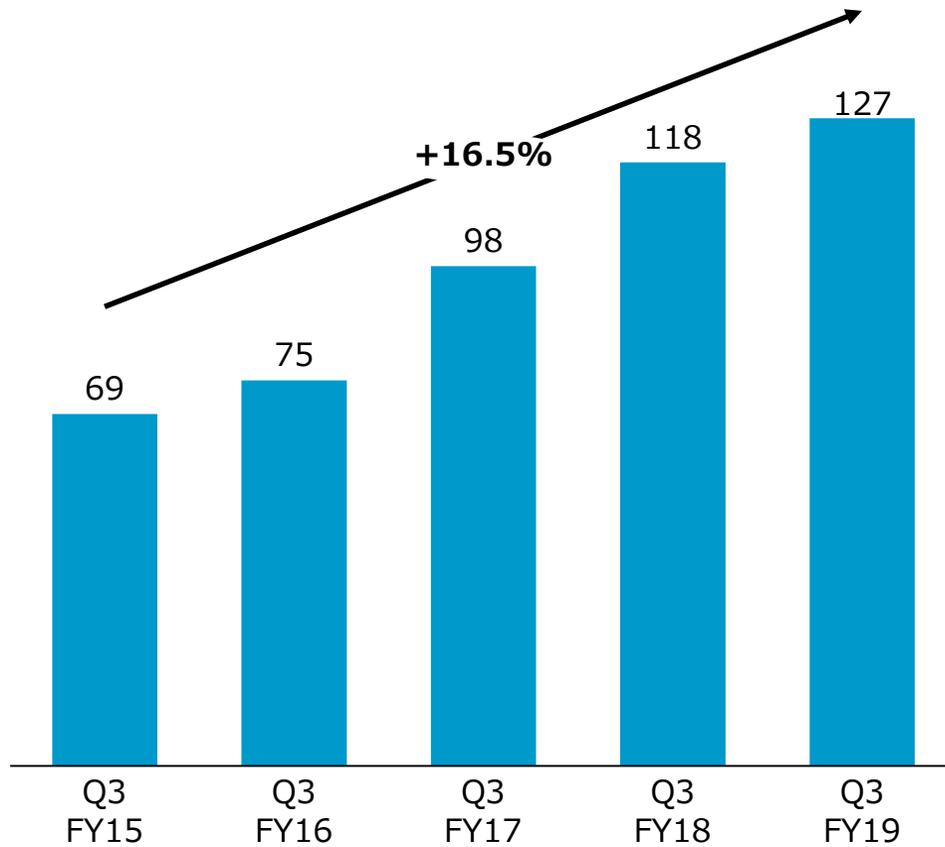
(百万CNY、CAGR)



2019年度第3四半期累計 売上収益推移 (アジア)

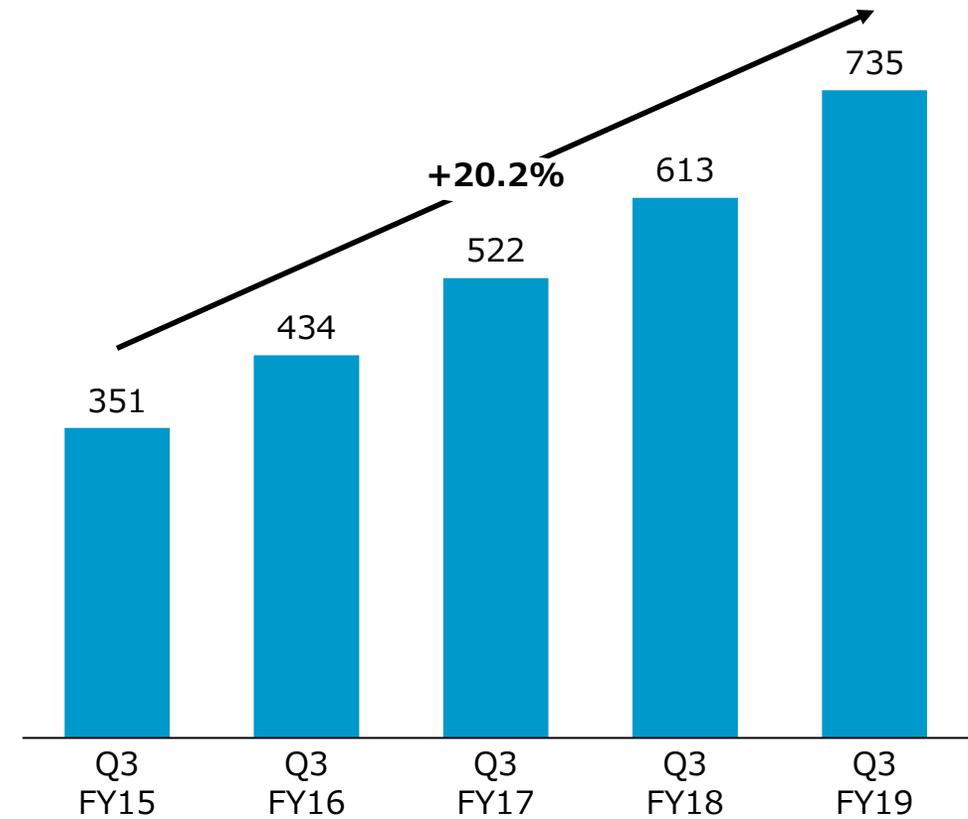
【日本円建】

(億円、CAGR)



【韓国：現地通貨建】

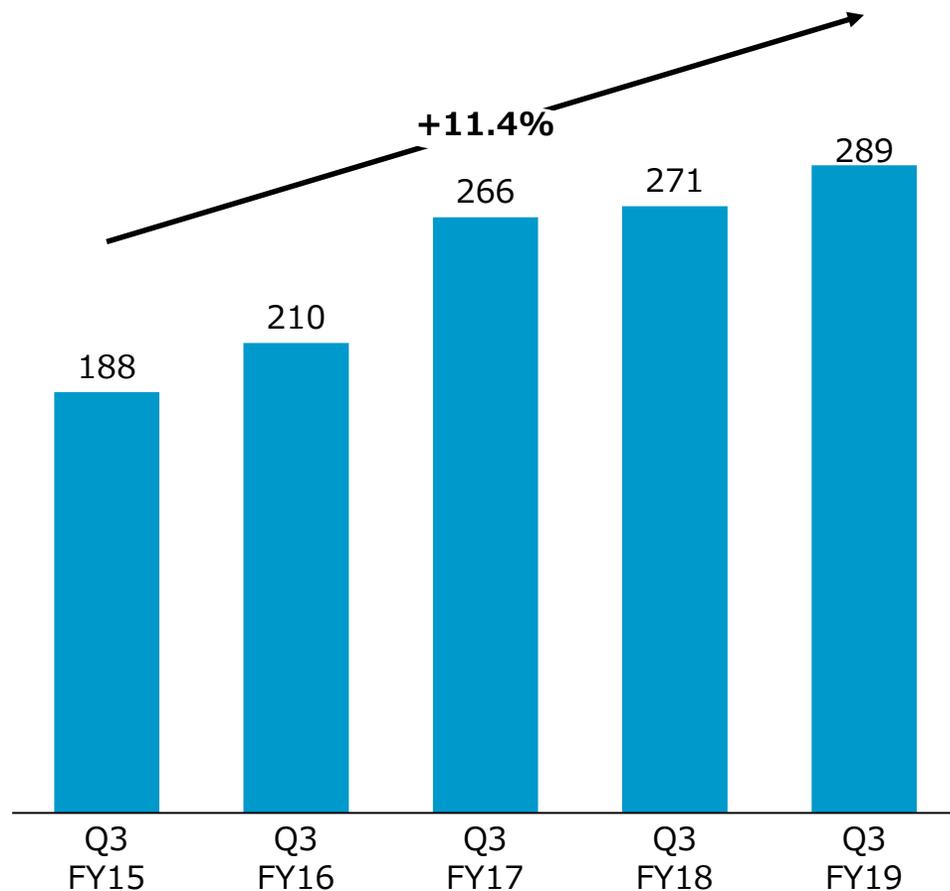
(億KRW、CAGR)



2019年度第3四半期累計 売上収益推移 (EMEA)

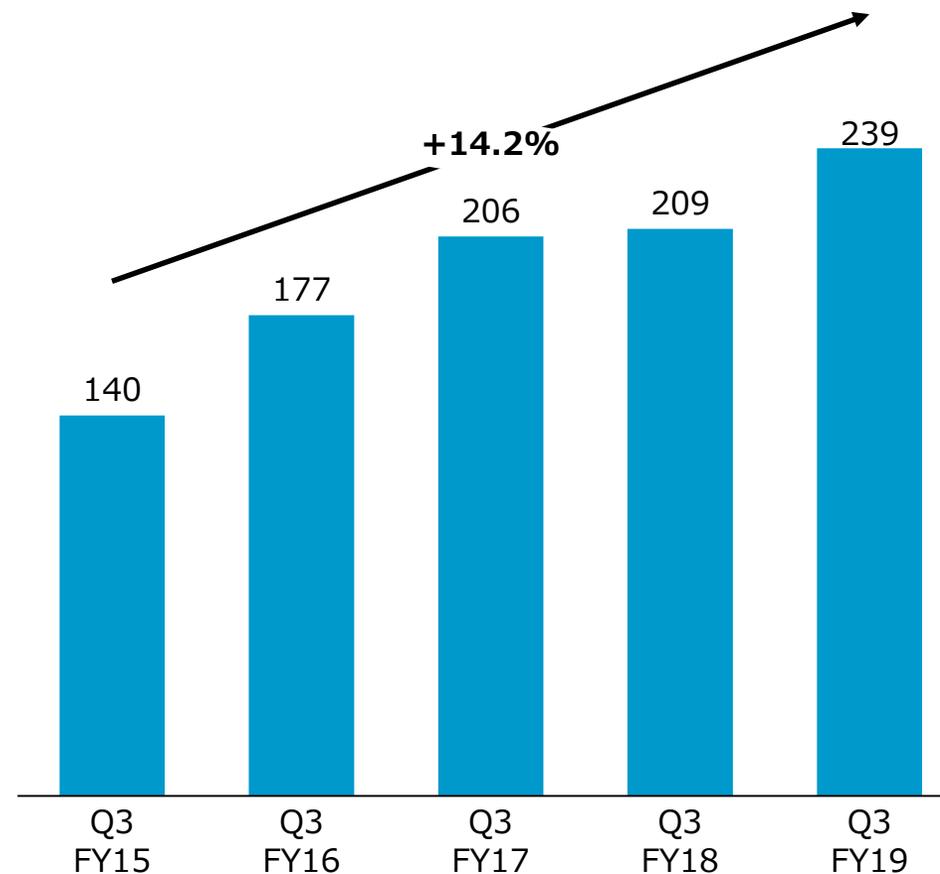
【日本円建】

(億円、CAGR)



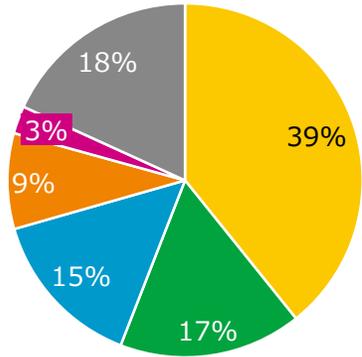
【EURO建】

(百万EUR、CAGR)



2019年度第3四半期累計 仕向地域別売上収益

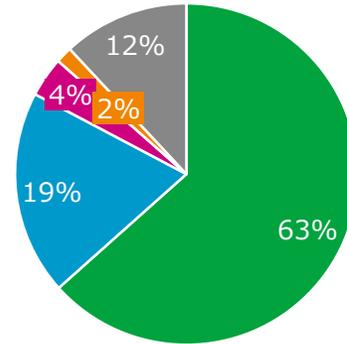
日本



アイリーア* 硝子体内注射液	474 億円
ジクアス点眼液	114 億円
アレジオン点眼液	100 億円
その他	520 億円
合計	1,208 億円

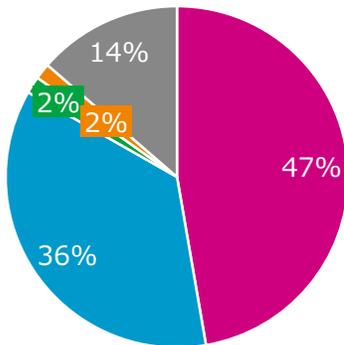
アイリーア*：製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品

EMEA



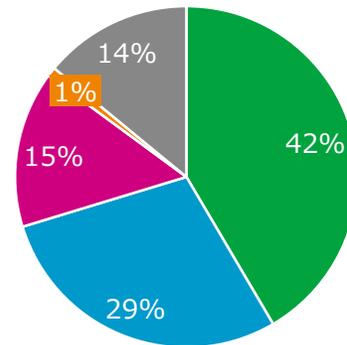
コソプト配合点眼液	73 億円
タブロス点眼液	50 億円
Ikervis	23 億円
その他	142 億円
合計	289 億円

中国



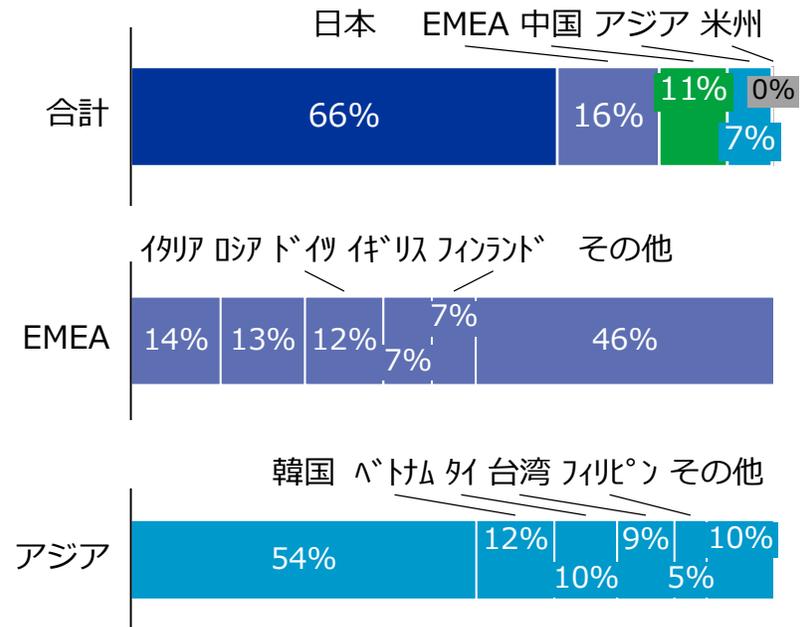
クラビット点眼液	84 億円
ヒアレイ点眼液	68 億円
フルメトロン点眼液	10 億円
その他	31 億円
合計	194 億円

アジア（中国除く）



コソプト配合点眼液	30 億円
ヒアレイ点眼液	15 億円
タブロス点眼液	14 億円
その他	67 億円
合計	127 億円

主要国・地域別売上比率

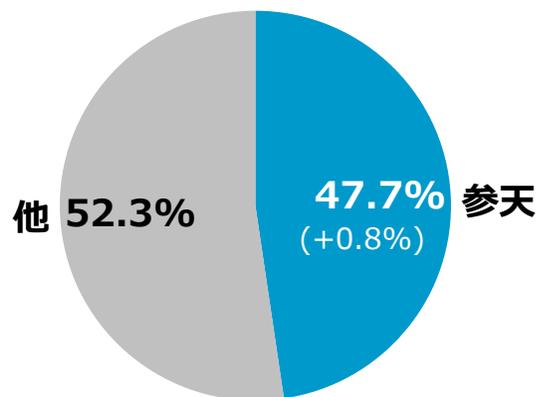


国内医療用眼科薬 市場概況 (2019年1-12月累計)

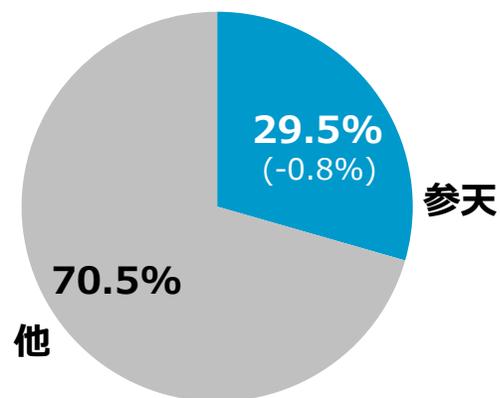
全ての領域において引き続きNo.1を維持

領域右記載数値：市場規模
 グラフ：マーケットシェア (括弧内は対前年増減)

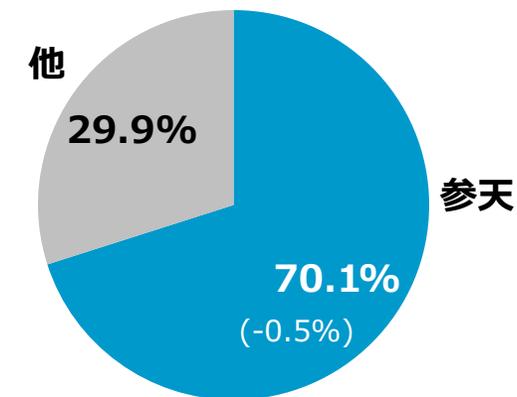
Total : 3,731億円



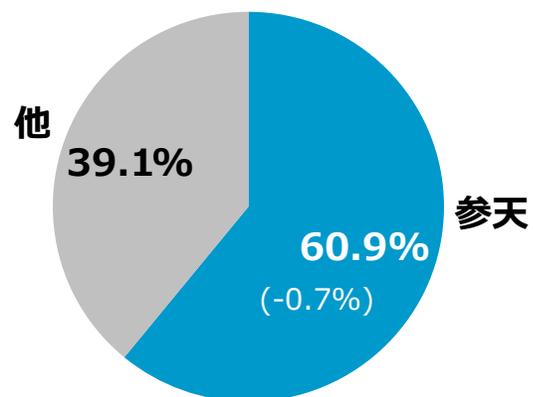
抗緑内障剤 : 1,079億円



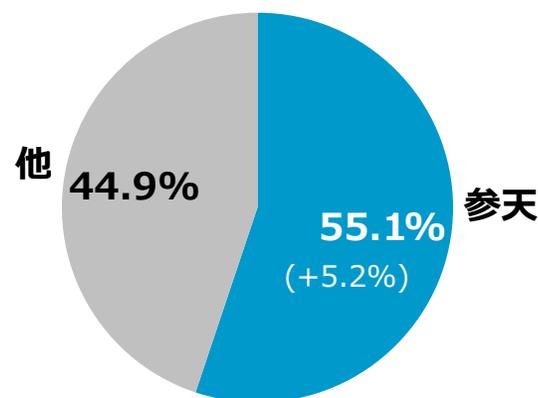
網膜疾患治療剤* : 1,033億円



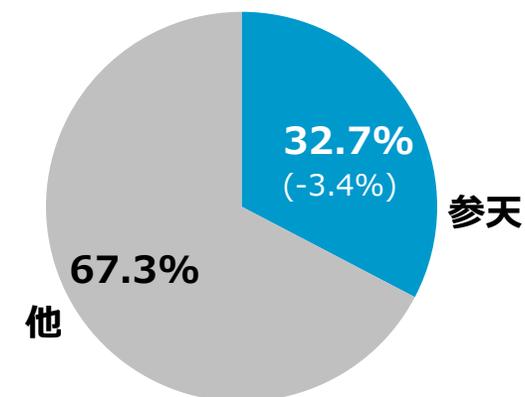
角膜疾患治療剤 : 463億円



抗アレルギー剤 : 483億円



抗菌点眼剤 : 117億円



*製造販売元であるバイエル薬品(株)とのコ・プロモーション製品(抗VEGF薬「アイリニア」)を含む
 出典: Copyright © 2020 IQVIA. JPM 2018.1-2019.12を基に参天分析 無断転載禁止

The logo for Santen features a large, stylized letter 'S' on the left. The 'S' is composed of two overlapping shapes: a light blue one on top and a dark blue one on the bottom. To the right of the 'S', the word 'Santen' is written in a bold, dark blue, sans-serif font.

A Clear Vision For Life™